

2022 Asian Le Mans Series Round 1/2 Dubai Autodrome (UAE)



Round.1 : FEB.12 Qualify : 7th / Race : 17th

Round.2 : FEB.13 Qualify : 16th / Race : 10th

2022 年の挑戦がスタート。ドバイでの連戦で上昇の手ごたえ



2022 年の年が明け 1 ヶ月強。いよいよ D'station Racing の新シーズンの挑戦がスタートした。今季もチームは国内ではスーパー耐久、GT ワールドチャレンジ・アジア『ジャパノカップ』、海外では WEC 世界耐久選手権、そしてアジア・ル・マン・シリーズとグローバルに戦っていく。その最初の挑戦が、アラブ首長国連邦のドバイ、アブダビで 2 週間 4 戦と集中的に開催される 2022 年アジア・ル・マンだ。シリーズはここ 2 年、ヨーロッパからトップクラスのチーム、ドライバーが参戦しており、GT クラスだけでも 23 台と多数のエントリー。激戦は必至で、D'station Racing にとっても良い腕試しとも言える。

シリーズの最初の戦いの舞台となるのは、ドバイ・オートドローム。D'station Racing は過去にこのコースで開催された 24 時間レースにも挑戦しているほか、2021 年もアジア・ル・マンで戦った経験がある勝手知ったるコースだ。2022 年は D'station Racing の日本人スタッフと、WEC でパートナーシップを結ぶ TF SPORT のスタッフが加わる体制を組み、星野敏／藤井誠暢のコンビに加え、2021 年もドライブしたトム・ギャンプルの 3 人でドバイでの第 1 戦／第 2 戦に臨んだ。

2 月 11 日（金）にスタートしたフリープラクティスでは、まずは星野からコースイン。藤井に

交代し、ギャンプル、藤井、ふたたびギャンプルと交代。陽が傾いたフリープラクティス 2 では、ギャンプル、星野、藤井、そしてギャンプルと交代しながらセットアップを進め、2 月 12 日（土）の予選に挑んだ。

予選のアタッカーを務めたギャンプルは、まず午前 9 時 30 分からの第 1 戦の予選で 1 分 55 秒 595 をマーク。激戦のなか 7 番手という好位置につけてみせる。しかし、上位陣のタイム差は非常に僅差。午前 9 時 45 分からの第 2 戦の予選では、1 分 56 秒 725 で 16 番手という位置に。シリーズの難しさを感じさせる予選となった。

予選後、チームは慌ただしく午後 4 時 30 分からの第 1 戦のレースに向けて準備を進めた。陽が傾くなか、4 時間の決勝レースでスタートドライバーを務めたのは星野だ。基本的に第 1 戦／第 2 戦とも、夕刻スタートで夜間にフィニッシュするナイトレース。1 年間アジア・ル・マンや WEC で戦いを積んできた星野にとっても、夜間の走行の経験は少ない。難しい状況でのスタートドライバーとなった。

星野はヨーロッパの猛者たちのなかでスタート直後から奮戦をみせるものの、大混戦のなかでわずかながら接触を喫し、8 周目にピットインを強いられてしまう。さらに、その接触によるペナル

ティがあり 24 周目に再度ピットへ。順位を落としてしまうことになった。

その後、星野は 30 周までのスティントをこなし、藤井に交代。追い上げを図っていく。ただ、ややオーバーステアぎみで思うようにペースを上げることができない。この症状はギャンプルに交代してからも続き、最終的に 17 位でフィニッシュ。やや悔しいレースとなった。

迎えた 2 月 13 日（日）の第 2 戦。セットアップを変更し臨んだレースでは、序盤からフィーリングも良く、星野も第 1 戦での悔しさを取り戻そうと好走をみせる。順位を上げながら自らのスティントをしっかりとこなすと、藤井に交代。レースペースが前日よりも上がっていると感じ取った藤井も、順位を上げていき、ギャンプルに交代。最後は 10 位までポジションを上げ、トップ 10 フィニッシュを果たしドバイラウンドを締めくくった。

第 2 戦ではフルコースイエローのタイミング等、わずかなタイムロスもあったが、第 1 戦からの大きな進歩にチームは着実な手ごたえを得た。

第 3 戦／第 4 戦のヤス・マリナでのレースは、2021 年は好走をみせシングルフィニッシュも果たした。D'station Racing はアブダビで表彰台を目指し戦っていく。

COMMENTS :



Driver : Satoshi HOSHINO

ドバイでの第1戦/第2戦ともスタートを担当しました。2021年と異なり、スタート時間が夕刻になったことから、最も自信がなかったナイトスティントを走ることになり、難しいコンディションでのレースとなりました。第1戦では少しアクシデントが起き、良い結果を残すことができませんでしたが、第2戦ではセットアップも改善され、良いペー

スが保てたと思いますし、私自身もスタートを担当し、自らのスティントをしっかりと走ることができました。結果的にトップ10でフィニッシュすることができて良かったです。第3戦/第4戦のヤス・マリーナでのレースでは、昨年両戦とも7位に入っているの、ポディウムを目指してチーム一丸となって戦っていききたいと思います。



Driver : Tomonobu FUJII

アジア・ル・マン第1戦/第2戦を終えましたが、予選では7番手、16番手でした。やはり世界のトップチーム、トップドライバーたちがル・マン出場の権利をかけて集まっており、WEC以上のコンペティティブな印象を受けました。そんななか、第1戦よりも第2戦でレースペースを上げることができましたし、第2戦では星野選手が非常

に難しい状況のなかで順位を上げてくださったおかげで、僕もギャンプル選手もその後良いレースを展開することができ、第2戦で10位という成績を残すことができました。アブダビはコースレイアウトが変わり、初めての挑戦となりますが、2021年もドバイよりもアブダビの方が合っていたと思いますし、表彰台を目標に戦っていききたいですね。



Driver : Tom GAMBLE

2021年のアジア・ル・マン・シリーズの最初の週末を終えたけれど、第1戦は難しいレースになってしまったね。接触もあり順位が後方に下がってしまったこともあり、その後はなかなか順位を戻すことができなかった。第2戦ではペースも良かったけれど、フルコースイエローのタイミングが少しアンラッキーで、タイムを失ってしまったのは

悔しいところだったね。星野サンが素晴らしいファーストスティントをこなしてくれたし、藤井サンも同様だったのでもおさらだね。望んでいた週末ではなかったけれど、第3戦/第4戦のアブダビは昨年よりも良い成績を残すことができたサーキットだ。ドバイでの第2戦ではクルマも進歩していたし、アブダビでの週末を楽しみにしているよ。

Team Director : Tom FERRIER

とても印象的な週末だったと思う。ふたたびD'station Racingのみんな、そして日本人クルーのみんなと仕事をするのができたこと、そしてそのなかにTF SPORTのクルーが入って、チームとして働くことができたのは本当に素晴らしい体験だった。週末の入り方はとても良く、ヴァンテージAMR GT3はTF SPORT

もD'station Racingのクルマとも、とてもスムーズだった。レースではアクシデントもあったけれど、星野サンは素晴らしい仕事をしてくれたと思うし、藤井サンもとても良かったよね。今週得られたことを第3戦/第4戦のアブダビに活かしていきたいし、アブダビではもっと良いリザルトを得たいと思っているよ。

Chief Engineer : David BREWER

我々にとっても、D'station Racingにとっても良い第1戦、第2戦になったのではないだろうか。土曜日に行われた第1戦では、いくつかのミスがあったが、第2戦ではそのミスから多くのことを学び、大きな進歩を遂げることができた。第2戦では星野サンがファーストスティントから素晴らしい走りを見せてくれて、藤井サ

ンがポジションを守る素晴らしい仕事をした。そして最後はトムがダブルスティントをこなし、トップ10フィニッシュを果たしたことは素晴らしいことだと思う。同じクルマを使い、同じチャンピオンシップを戦っているのだからなおさらだね。第3戦/第4戦のアブダビではもっと良くしてきたい。アブダビが楽しみだね。

